

2013 年会計年度 事業報告
(2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日)

【】内は参加人数

前年度に一般社団法人として新たなスタートを切り、2年目を迎えた2013年度の協会活動は、引き続き必要な情報を役員間で素早く共有し迅速な意思決定に基づき行動することに努めた。諸イベントについては、予定したとおりに実施しえた。

調査研究事業において内容に定評を得ている「シンガポール共和国の概況」を初めて会員全員に配布できたこと、セミナー・講演事業においては下記のように3つの講演を主催し得たことなどは、当年度のハイライトとも言える活動となった。

前年度に引き続き財政基盤強化の一環として寄付を継続募集することとし、2014年2月末を以て一区切りとした。2012年度、2013年度の寄付合計額は、3,182,980円に達し、季刊誌「シンガポール」2014年春号に支援をいただいた会員の皆様の氏名を掲載し謝意を表した。

このほか前年度に引き続き、シンガポール大使館をはじめとする各機関や、日本各地のシンガポール友好団体、更に日本香港協会をはじめとする諸団体との交流に努めた。

1、調査研究事業

上述のように2013年版「シンガポール共和国の概況」について会員サービスの一環として全員に配布した。今後も年1回ペースで改訂版の発行を予定する。

2、親善交流事業

会員相互の親睦、シンガポール及びその他アジアの人達との交流を図るため下記を開催した。

- 1) 「アフタヌーン・ティ・サロン」(2013/05/30) (従来の秋開催を変更) 【50名】
- 2) 「シンガポール日本人学校OB/OG同窓会」(2013/06/08) 10周年記念として盛大に開催【110名】
(在日シンガポール首席公使を招く)
- 3) 「エビスビールとシンガポール料理で暑気払い」(2013/08/03) (恵比寿ガーデンプレイス【27名】)
- 4) 「懇親ゴルフ大会」【2013/09/03:38名】、【2014/03/12:44名】(共に大使館側からも参加いただいた)
- 5) シンガポールからの留学生との「送別会(2013/07/29)【11名】」、「懇親会(2013/10/23)【7名】」
- 6) 「ゲット・トゥゲザー」(2013/11/20【78名】)
- 7) 「初笑い落語と懇親の集い」(2014/01/30【51名】)
- 8) 「関西シンガポール同窓会」(2013/08/09【20名】)、(2014/02/07【26名】)

3、セミナー・講演事業

シンガポール及びアジア関係の下記講演会を行なった。

- 1) 「国土から考える日本人～経験から生まれた史観の特徴～」
(2013/04/20 第43回定例総会：国際文化会館【42名】)
一般財団法人 国土技術研究センター理事長 大石久和氏
- 2) 「アベノミクスの行方とアセアン諸国への影響」経済評論家 藤巻健史氏
(2013/06/20 :アセアンセンター【95名】)
- 3) 「日中関係と日本経済の行方」(2014/02/13 : 日本工業倶楽部【134名】)
元伊藤忠商事社長・会長、元中国大使 丹羽宇一郎氏
- 4) その他講演依頼に対応 (略)

4、出版事業

前年度に引き続き「シンガポール企業経営ガイド」、「シンガポール会社法Q&A」、「シンガポールの華人社会」、「シンガポールPAP政権」、「ハローシンガポール」等の書籍を販売した。

5、広報事業

- 1) 月2回シンガポール情報をメールにて配信、季刊誌「シンガポール」を4回発行した。
- 2) ホームページの充実を努め、Facebook等を含めた掲示版等での交流が深まっている。
- 3) シンガポール日本人商工会議所(JCCI)「月報」、シンガポール日本人会「南十字星」に当協会役員の随想と共に当協会の紹介記事を継続掲載いただいている。
- 4) 公共性・公益性の高いイベントについて、依頼により「後援」を行った。

以上

2014 年会計年度 事業計画

(2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日)

本年度も引き続き会員サービスの充実を図り、会員増に向け努力を継続する。2012 年度、2013 年度にキャンペーンとして行った寄付募集が一区切りをつけたこともあり、会員増を本年度事業計画における最重点項目として会員各位のご協力も得て取り組む。各種イベントについては前年度同様に開催を企画し、会員と非会員の参加費の見直し等を図る。また、シンガポールとの諸分野における交流を一層深化すべく、駐日シンガポールの各機関との連携を継続、強化するよう努める。

本年度は下記の事業を計画し実行する。

1、会員増強活動の継続・強化

引き続きあらゆる機会を捉え、工夫を凝らして新規会員の増強に努める。このために会員にとってより魅力ある活動の提供、会員サービスについて検討を重ね実行に移す。

2、各種事業活動の推進

2-1、調査研究事業

「シンガポール共和国の概況」の編集・発行を継続する。2013 年度版は初めて会員全員に配布したが、内容、作成方法及び配布先などにつき他協会からの反響も大きかった。今年度も引き続き会員全員に配布を計画する。進出予定企業等からなど個別の問い合わせに関しては、シンガポール現地の関係機関とも連絡確認を密に取りながら対応する。

2-2、親善交流事業

会員相互及び在日シンガポール人、留学生との国際交流が図れる場として、アフターヌーンティー・サロン、アニュアル・ゲット・トゲザー等の開催を昨年度同様に企画する。また、親善交流のための懇親ゴルフ会、シンガポール日本人学校 OB&OG 懇親会等を引き続き企画開催する。今年度はシンガポールから来日する団体 (SSGS-Singapore Senior Golfers Association) との親善ゴルフを重点企画の一つとし、受入れのための組織を構築し準備の万全を図る。

日本香港協会等他地域の協会とのイベントの相互参加を通じて、ASEAN から APEC に及ぶ情報の提供や交流の機会を拡充すると共に、日本各地におけるシンガポール協会等、友好親善団体との交流を一層図るべく努力する。

2-3、セミナー講演会事業

シンガポール及びこれを取り巻く環境、情勢に対応し、会員のために有効・有益な講演会、イベントを企画し実施する。また、青少年層の国際化支援のため、大学や高校へ引き続き積極的に講師の派遣やインターンシップの斡旋等に務める。

2-4、出版事業

シンガポールに関する研究をはじめ、シンガポール進出に関し、地方自治体や中堅企業のニーズに対応して、シンガポール及び周辺の歴史や、会社設立・経営・税務に係る書籍等の提供と情報サービスを展開する。

2-5、広報事業

引き続き、季刊誌「シンガポール」及びホームページの質的向上を図ると同時に、高い評価を得ているシンガポール情報のメールによる定期配信を継続する。特に季刊誌「シンガポール」の内容を継続して質的に充実させることが、会員サービスの核であることを認識して取り組む。また、シンガポール日本人会、シンガポール日本人商工会議所、日本におけるシンガポール政府関連の出先機関との連携を深め、内外において友好関係増進のための広報活動をより積極的に行う。

以上